

月	単元名・教材名	配当時間	単元の目標	評価規準				学習指導要領との対応	
				関心・意欲・態度	見方や考え方	数学的な技能	知識・理解		
6月 休校期間 中 家庭学習含む	整数の性質	1	<ul style="list-style-type: none"> ○整数を2つの自然数の積の形に表し、倍数や約数の性質を見いだすことができる。 ○素数の意味を理解し、自然数を素数と素数ではない数に分けることができる。 ○自然数を素因数分解することができる。 ○素因数分解の結果を利用して、整数の約数を求めることができることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○整数を2つの自然数の積の形に表すことに関心を持ち、その結果からわかることがないか考えようとしている。 ○自然数を素因数分解することに関心を持ち、いろいろな方法で素因数分解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○整数を2つの自然数の積に表した形から、倍数をもち、その結果を見いだすことができる。 ○自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数を素因数分解することができる。 ○素因数分解の結果を、累乗の指数を使って表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○素数の意味を理解している。 ○自然数が素数と素数ではない数に分けられることを理解している。 ○素因数分解の意味とその方法を理解している。 ○素因数分解は、どんな順序で行っても同じ結果になることを理解している。 ○素因数分解を利用して、整数の約数を求めることができることを理解している。 	A(1)	
	1章 正負の数 「-」のついた数	26 1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近にある負の数の例を知り、それらを通して負の数の意味を考えること 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの正の数、負の数に関心を持ち、正の数、負の数が使われていることがらを見つけようとしたり、また、「-」のついた数が表していることがらを考えようとしたりしている。 ○負の数に関心を持ち、その計算などについて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりから正の数、負の数が使われていることがらを見だし、その意味や使われ方を考えることができる。 			A	
	1節 正負の数 ① 符号のついた数	2	<ul style="list-style-type: none"> ○+、-の符号や正の数、負の数の意味 ○自然数の意味 ○反対の性質をもつ量や変化を、正負の数を使って表すこと ○基準とのちがいを、正負の数を使って表すこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○正の数、負の数に関心を持ち、その必要性と意味を考えようとしている。 ○身のまわりの正の数、負の数に関心を持ち、具体的なことがらをもとに、正の数、負の数という見方できらえようとしている。 ○たがいに反対の性質をもつ量について関心を持ち、数量を正の数、負の数を用いて表そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○反対の方向や性質を表す場面について、正の数や負の数を用いて考えることができる。 ○身のまわりで正の数、負の数が使われていることがらについて、正の数、負の数のがどのように利用されているかを考えることができる。 ○基準とのちがいを正負の数を用いて表し、それを利用して考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的なことがらやたがいに反対の性質をもつ量を、正の数、負の数を用いて表すことができる。 ○基準とのちがいを、正負の数を用いて表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正の数、負の数、0の意味やその必要性を、経験や日常生活の具体的なことがらに結びつけて理解している。 ○正負の数に関する用語の意味を理解している。 		
	② 数の大小	2	<ul style="list-style-type: none"> ○負の数を数直線上に表すために、正の範囲の数直線を拡張すること ○原点の意味、正の方向、負の方向の意味 ○正負の数を数直線上に表すこと ○数の大小関係を、不等号を使って表すこと ○絶対値の意味 ○絶対値をもとに数の大小を考えること 	<ul style="list-style-type: none"> ○負の数をふくむ数直線や大小関係に関心を持ち、小学校での学習内容に関連づけて、それらを考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数について、数直線上の数の位置とそれらの数の大小関係を、正の数の場合と同様に考えることができる。 ○絶対値をもとに、正の数、負の数の大小について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正の数、負の数を数直線上に表すことができる。 ○正負の数の絶対値を求めることができる。 ○正負の数の大小関係を、不等号を用いて表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線に関して、原点や正の方向、負の方向の意味を理解している。 ○正の数、負の数の大小関係や、不等号、絶対値の意味を理解している。 	ア (ア) ア (ウ)	
	基本の問題	1							
	数学のまど	／	「不足を表す符号」	<ul style="list-style-type: none"> ○負の符号の歴史に関心を持ち、さらに調べたり、他の記号について調べようとしたりしている。 					
	2節 加法と減法 ① 加法	4	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の加法の意味と、その計算方法を東西の移動をもとに考えること ○正負の数の加法を計算すること ○0と正負の数の和 ○分数、小数をふくむ加法を計算すること ○加法の交換法則、結合法則 ○加法の交換法則、結合法則を用いて、3つ以上の数の加法を計算すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の加法の計算に関心を持ち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ○いくつもの数の加法に関心を持ち、加法の交換法則や結合法則を利用して、くふうして計算しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の加法の計算の方法を、東西の移動など、具体的な量に結びつけて見いだすことができる。 ○正負の数の加法の計算の方法について、数直線を使って説明することができる。 ○加法の交換法則や結合法則を利用して、いくつもの数の加法をくふうして計算する方法を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の加法の計算ができる。 ○加法の交換法則や結合法則を利用して、いくつもの数の加法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の加法の計算の意味とその方法を理解している。 ○加法における0の意味を理解している。 ○正負の数においても、加法の交換・結合法則が成り立つことを理解している。 		
	② 減法	3	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の減法の意味と、その計算方法を加法の図をもとに考えること ○減法を加法にたがいで計算すること ○0と正負の数の差 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の減法の計算に関心を持ち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の減法の計算の方法を、減法の意味を考え、数直線を利用して見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の減法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正負の数の減法の計算の意味とその方法を理解している。 ○0からある数をひいた結果の意味を理解している。 		
	③ 加法と減法の混じった計算	3	<ul style="list-style-type: none"> ○負の数を範囲に入れると減法はいつでも可能になること ○代数和の考えで2数の減法を計算すること ○項の意味 ○加法と減法の混じった式を加法だけの式になおすこと ○加法と減法の混じった式を計算すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○加法と減法を統一的に見ることができ、このことから加減の混じった計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○負の数を考えることによって、小さい数から大きい数をひくことができるようになったという負の数のよさを見いだすことができる。 ○加法と減法を統一的に見ることができ、加減の混じった式を正の項、負の項の和としてとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○加法と減法の混じった式を、代数和の考えで計算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○負の数を考えることによって、加法と減法を統一的に見ることができ、加減の混じった式を正の項、負の項の和としてとらえることができる。 		
	数学のまど	／	「数の石垣」	<ul style="list-style-type: none"> ○「数の石垣」に興味を持ち、あてはまる数を求めたり、いろいろな問題をつくったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則性がないかどうかを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あてはまる数を求めることができる。 			
基本の問題	1								
数学のまど	／	「魔方陣」	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔方陣」に興味を持ち、歴史を調べたり、いろいろな問題をつくってみようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則性がないかどうかを考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔方陣」を完成させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔方陣」のしくみについて理解している。 	ア (イ) イ (ア)		

6	3節 乗法と除法 ① 乗法	4	○正負の数の乗法の意味と、その計算方法を東西の移動をもとに考えること ○正負の数の乗法を計算すること ○小数、分数をふくむ乗法を計算すること ○-1と正負の数の積 ○1や0と正負の数の積 ○乗法の交換法則、結合法則 ○3つ以上の数の乗法を計算すること ○累乗の意味と累乗の計算をすること	○正負の数の乗法の計算に関心をもち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。 ○いくつかの数の乗法の計算に関心をもち、乗法の交換法則や結合法則を利用して、くふうして計算しようとしている。	○正負の数の乗法の計算の方法を、東西の移動など、具体的な量に結びつけて見いだすことができる。 ○0との乗法について、東西の移動に関連づけて意味を説明することができる。 ○指数がどの数に関係するのかを、その式の形に応じて説明することができる。 ○乗法の交換法則や結合法則を利用して、いくつかの数の乗法をくふうして計算する方法を説明することができる。	○正負の数の乗法の計算ができる。 ○乗法の交換法則や結合法則を利用して、いくつかの数の乗法の計算ができる。 ○同じ数の積を、指数を用いて表すことができる。 ○累乗の計算ができる。	○正負の数の乗法の計算の意味とその方法を理解している。 ○ある数と-1との積の意味を理解している。 ○乗法における0と1の意味を理解している。 ○正負の数においても、乗法の交換・結合法則が成り立つことを理解している。 ○いくつかの数の積の計算方法を理解している。 ○指数に関する用語や指数を用いた表し方について理解している。	
	② 除法	1	○正負の数の除法の意味と、その計算方法を逆算の考えから考えること ○分子や分母が負の数である分数の表し方 ○逆数の意味 ○逆数を使って除法を乗法になおして計算すること ○乗法と除法の混じった式を計算すること	○正負の数の除法の計算に関心をもち、その意味や計算の方法を考えたり、計算したりしようとしている。	○正負の数の除法の計算の方法を、逆算の考えから見いだすことができる。 ○乗法と除法を統一的にみることが出来る。	○正負の数の除法の計算ができる。 ○逆数を求め、除法を乗法になおして計算することができる。 ○乗法と除法の混じった計算ができる。	○正負の数の除法の計算の意味とその方法を理解している。 ○乗法と除法の混じった式の計算方法について理解している。	
	③ 四則の混じった計算	1	○四則の意味 ○四則の混じった式を計算すること ○分配法則の意味 ○正負の数の計算に分配法則を利用すること ○分配法則を利用して計算を効率的に行うこと	○正負の数の四則の混じった式や分配法則を用いる計算の方法を、小学校における既習内容と関連づけて考えようとしている。	○正負の数の四則の混じった式や分配法則を用いる計算の方法を、小学校の既習内容と関連づけて考えることができる。 ○分配法則を利用して、計算を効率的に行う方法を説明することができる。	○正負の数の四則の混じった計算ができる。 ○正負の数の計算を、分配法則を利用して行うことができる。	○正負の数の混じった式の計算順序を理解している。 ○正負の数においても、分配法則が成り立つことを理解している。	
	数学のまど		「小町算」	○「小町算」に関心をもち、意味を調べたり、ほかの場合について調べたりしようとしている。	○求めた過程について、説明することができる。 ○100になるほかの場合がないか考えることができる。	○「小町算」を完成させることができる。		
	④ 数の範囲と四則	1	○自然数や整数の集合 ○数の範囲とその範囲でいつでもできる四則について調べること	○数の範囲と計算の可能性に関心をもち、四則がどの数の範囲で可能であるかどうかを調べようとしている。	○数の範囲と計算の可能性の関係について考えることができる。	○それぞれの数の範囲で、四則計算のうちいつでもできる計算をいうことができる。	○数の範囲とその数の範囲で計算可能な四則計算について理解している。	ア (ア) ア (ウ)
	4節 正負の数の利用 ① 正負の数の利用	2	○正負の数の計算を利用して、身近な問題を解決すること	○正の数、負の数を利用することに関心をもち、具体的なことがらの変化や状況を正の数、負の数で表したり、処理したりしようとしている。	○仮平均など、正の数、負の数を具体的なことがらに利用することを通して、正の数、負の数を用いて考えることよき気づく。 ○具体的なことがらの変化や状況を正の数、負の数で表し、考えることができる。	○正の数、負の数を利用して、具体的なことがらを表したり、処理したりすることができる。	○正の数、負の数を使うと、具体的なことがらについて、変化や状況を分かりやすく表したり、処理したりできることを理解している。	ア (イ) ア (ウ) イ (イ)
	章の問題 A	0						
	章の問題 B							
	数学のまど		「トランプゲームをしよう」	○「トランプ」を使うことに関心をもち、ほかのルールでゲームをつくってみようとしている。	○自分の考え方を説明することができる。	○いちばん大きな数をつくることができる。		
	数学マイノート							
2章 文字と式 マッチ棒は何本必要？	22 1	○マッチ棒の本数を求める式を、いろいろな考え方で求めること	○マッチ棒の本数の求め方に関心をもち、求め方を考えようとしている	○マッチ棒の求め方について、他人の考えをよみとって考え方を説明したり、式をつくったりすることができる。 ○マッチ棒の本数の求め方を考え、その方法を説明することができる。	○正方形の数が少ない場合について、マッチ棒の本数を求めることができる。	○マッチ棒の並べ方を理解し、図に表すことができる。	A	
1節 文字を使った式 ① 文字の使用	3	○文字の導入 ○文字を使うことのよさ ○文字を使った式の意味 ○簡単な場合について、数量を文字を使って表すこと ○使われている文字が表す数の範囲について調べること	○文字を用いて数量を表すことに関心をもち、その必要性や意味を考えたり、いろいろな数量を文字を用いて表したりしようとしている。	○数量の関係や法則を、文字を用いて一般的にかつ簡潔に表現することを通して、事象を考察することができる。 ○文字が表している数の範囲を考慮することができる。	○数量の関係や法則を、文字を用いて式に表すことができる。	○数の代わりに文字を用いることで、数量や法則を一般的に表現できることを理解している。 ○文字式は、操作と操作の結果の両方を表しているということを理解している。	ア (ア)	
② 文字を使った式の表し方	3	○文字使用のきまり(積、累乗、商) ○文字使用のきまりにしたがって式を表すこと ○文字使用のきまりにしたがって、いろいろな数量を文字式に表すこと ○ π の意味と、円周の長さや円の面積を π や文字を使って表すこと ○単位をそろえて数量を式に表すこと ○割合、速さに関する数量を文字を使って式に表すこと ○文字式の表している数量をよみとること	○文字を用いて数量を表すことに関心をもち、いろいろな数量を文字を用いて表したり、文字を用いた式の意味をよみとったりしようとしている。	○数量の関係や法則を、文字を用いて一般的にかつ簡潔に表現したり、文字式の意味をよみとったりすることを通して、事象を考察することができる。	○数量の関係や法則を、文字を用いて式に表したり、その式が表している具体的場面をよみとったりすることができる。 ○文字使用のきまりにしたがって、式を表したり、具体的な数量を文字式に表したりすることができる。 ○ π を用いて、円に関する数量を文字式に表すことができる。 ○単位の異なる数量の和や差、割合、速さについて、数量を文字式で表すことができる。 ○文字式の表す数量をよみとることができる。	○文字を使った式の積や商の表し方のきまりを理解している。 ○ π の意味と π をふくむ文字式の表し方のきまりを理解している。 ○単位の異なる数量の和や差は単位をそろえてから計算することを理解している。	ア (イ) ア (エ)	
③ 代入と式の値	2	○代入と式の値の意味 ○文字式に数を代入して式の値を求めること ○代入を利用して、具体的な場面の値を求めること	○式を利用することに関心をもち、文字に数を代入して式の値を求めたり、具体的な事象について式の値を求めることを通して、問題を解決したりしようとしている。	○文字に数を代入することの意味やその結果を、具体的な事象にもとって考えることができる。	○文字式に数を代入して式の値を求めることができる。	○代入することの意味や式の値の意味を理解している。	ア エ	
基本の問題	1							
2節 文字式の計算 ① 1次式の計算	6	○項、係数の意味 ○1次の項、1次式の意味 ○文字の部分が同じ項をまとめること ○1次式の加減を計算すること ○1次式と数の乗法を計算すること ○1次式と数の除法を計算すること ○1次式のいろいろな計算をすること	○1次式の計算に関心をもち、その計算方法について考えたり、計算したりしようとしている。	○1次式の加減や乗除の方法について、既習事項や日常の場面と関連づけて、その計算方法を考えることができる。	○式の項、係数をいうことができる。 ○文字の部分が同じ項どうし、数の項どうしをまとめることができる。 ○1次式の加減の計算ができる。 ○1次式と数の乗除の計算ができる。	○項、係数の意味を理解している。 ○1次式の計算方法を理解している。	ア (イ) ア (ウ)	

発展		「同類項の用語」					
基本の問題							
3節 文字式の利用 ① 式が表す数量	3	○導入の場面において、式の意味をよみとり、図などを使って考え方を説明すること ○2けたの数や倍数、偶数・奇数などの整数を、文字を使って表すこと	○式が表す量をよみとることに関心をもち、図を使って説明しようとしている。 ○いろいろな数について、それらを文字を使って表すことに関心をもち、いろいろな数を一般的に表そうとしている。	○式が表す量を、図を使って説明することができる。 ○文字を用いて表された式がどのような数を表しているかをよみとることができる。	○文字を使って、2けたの数や倍数などを表すことができる。	○文字を使って、いろいろな数を一般的に表すことができることを理解している。	ア (エ)
② 関係を表す式	3	○等式、不等式の意味 ○等式、不等式における右辺、左辺、両辺の意味 ○数量の関係を表す式や不等式で表すこと ○不等号 \leq , \geq の意味 ○「以下」、「以上」、「未満」の意味とその関係を不等号を用いて表すこと ○等式や不等式で表された関係をよみとること	○式を利用することに関心をもち、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、表された式をよみとったりしようとしている。	○数量の間の関係を等式や不等式で表すために、具体的な場面をよみとり、数量やその関係をよみとることができる。 ○等号や不等号を、数量の間の関係を表す記号としてよみとることができる。	○数量の間の関係を等式や不等式で表すことができる。 ○等式や不等式が表す数量の間の関係をよみとることができる。	○等式、不等式の意味を理解している。 ○等号は、相当関係を表す記号として用いられることを理解している。 ○それぞれの不等号の意味を理解している。	ア (ア) ア (エ) イ (ア)
数学のまど	／	「公式で使う文字」	○公式で用いる文字の意味について関心をもち、単語の意味を調べてみようとしている。				
基本の問題							
章の問題 A							
章の問題 B							
3章 方程式 何個集まったかな？	15 1	○ペットボトルのキャップの個数をいろいろな方法で求めること	○キャップの個数の求め方に関心をもち、求めようとしている。	○キャップの個数を、いろいろな方法で求めることができ、その方法を説明することができる。	○キャップの個数を、表や既習事項を利用して求めることができる。	○課題に示された数量の間の関係を理解している。	A
1節 方程式とその解き方 ① 方程式とその解	2	○方程式とその解、および方程式を解くことの意味 ○方程式の解を、文字にいろいろな値を代入して求めること ○等式の性質 ○等式の性質を使って簡単な方程式を解くこと	○方程式に関心をもち、その必要性和意味を考えたり、その解をいろいろな方法で求めたりしようとしている。 ○等式の性質に関心をもち、てんびんなどの具体的操作と関連づけて調べようとしている。 ○方程式の解き方に関心をもち、等式の性質を利用して方程式の解き方を考えたり、解を求めたりしようとしている。	○方程式を成り立たせる数の値を求める方法を考えることができる。 ○等式の性質について考えることができる。 ○等式の性質を利用して方程式の解き方の手順について考えることができる。	○方程式の文字にある値を代入して、方程式の解を求めたり、その値が解であるかどうかを確かめたりすることができる。 ○等式の性質を使って、簡単な方程式を解くことができる。	○等式、方程式、方程式の解、方程式を解くことの意味を理解している。 ○等式の性質を理解している。 ○等式の性質を利用して方程式を解くことができることを理解している。	ア (ア)
② 方程式の解き方	2	○移項の意味 ○移項の考えを使って方程式を解くこと ○基本的な方程式を解くときの手順	○方程式の解き方に関心をもち、等式の性質を利用した方程式の解き方をもちに、より合理的な解き方がないかを考えようとしている。 ○移項に関心をもち、それを利用して方程式の解き方を考えたり、解を求めたりしようとしている。	○移項の考えを利用した方程式の解き方の手順について考えることができる。	○移項の考えを使って、簡単な方程式を解くことができる。	○移項の意味を理解している。 ○1次方程式を解く手順を理解している。	
③ いろいろな方程式	3	○かっこをふくむ方程式を解くこと ○小数係数の方程式を解くこと ○分数係数の方程式を解くこと ○一般的な方程式の解き方の手順の確認 ○1次方程式の意味 ○解の値をもとに、方程式の係数を求めること	○かっこをふくむ方程式や、係数に分数や小数をふくむ方程式の解き方に関心をもち、解き方を考えたり、それらを解こうとしたりしている。	○かっこをふくむ方程式や、係数に分数や小数をふくむ方程式を $a x = b$ の形に整理して解く手順を考えることができる。	○かっこをふくむ方程式や、係数に分数や小数をふくむ方程式を解くことができる。 ○方程式の解の意味にもとづいて問題を解決することができる。	○かっこをふくむ方程式や、係数に分数や小数をふくむ方程式の解き方を理解している。	ア (イ)
基本の問題	1						
2節 1次方程式の利用 ① 1次方程式の利用	4	○数量の間の関係を方程式で表すときの手順にしたがって、方程式をつくること ○具体的な問題を、方程式を利用して解決すること ○求めた解が問題にあてはまるかどうかを調べること ○数量の間の関係を方程式で表すときの手順のまとめ	○方程式を利用することに関心をもち、具体的な問題の解決に方程式を利用しようとしている。	○具体的な問題で、数量の間の関係をよみとることができる。 ○求めた答や解法が適切であったかどうかを振り返って考えることができる。 ○方程式をつくらせて具体的な問題を解決することのよきを見いだすことができる。	○具体的な問題で、数量の間の関係を理解し、つくられた方程式を解いて答を求めることができる。	○方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。 ○方程式をつくらせて具体的な問題を解くことのよきを理解している。	
基本の問題							
3節 比例式 ① 比例式	2	○比例式の意味とその性質 ○比例式の性質を利用して文字の値を求めること ○具体的な問題について、比例式の性質を利用して方程式をつくり、解決すること	○比例式を利用することに関心をもち、具体的な問題の解決に比例式を利用しようとしている。 ○比例式の性質に関心をもち、数の計算と関連づけて性質を説明しようとしている。	○具体的な問題で、数量の間の関係を比例式で表すことができる。 ○比例式の性質が成り立つわけを、数の計算をもとに説明することができる。	○比例式の性質を利用して、数の値を求めることができる。 ○比例式の性質を利用して方程式をつくり、その方程式の解を求め、もとの問題の答を求めることができる。	○比例式の意味とその性質を理解している。 ○比例式を利用して問題を解く手順を理解している。	ア (イ) イ (イ)
数学のまど	／	「ディオファントスの年齢は？」	○ディオファントスや古い方程式の問題に関心をもち、調べてみようとしている。		○文章にしたがって方程式をつくり、問題を解くことができる。		
3節 比例式 ① 比例式	3	○比例式の意味とその性質 ○比例式の性質を利用して文字の値を求めること ○具体的な問題について、比例式の性質を利用して方程式をつくり、解決すること	○比例式を利用することに関心をもち、具体的な問題の解決に比例式を利用しようとしている。 ○比例式の性質に関心をもち、数の計算と関連づけて性質を説明しようとしている。	○具体的な問題で、数量の間の関係を比例式で表すことができる。 ○比例式の性質が成り立つわけを、数の計算をもとに説明することができる。	○比例式の性質を利用して、数の値を求めることができる。 ○比例式の性質を利用して方程式をつくり、その方程式の解を求め、もとの問題の答を求めることができる。	○比例式の意味とその性質を理解している。 ○比例式を利用して問題を解く手順を理解している。	
基本の問題							
章の問題 A							
章の問題 B	／						

	数学の探究	「方程式の問題をつくってみよう」						
10	4章 比例と反比例 待ち時間の予想はできるかな？	18 1	○行列の待ち時間を、比例の考えを使って予想すること	○課題について関心をもち、身のまわりで同様の場面を見つけたら、課題を解決したりしようとしている。	○課題を解決するためには何がわかればよいかを考えることができる。 ○自分の考え方を説明することができる。	○課題を解決することができる。	○身のまわりには比例の考えを使って問題解決することができる場面が多くあることを理解する。	C
	1節 関数 ① 関数	2	○変数の意味 ○関数の意味 ○関数であることがらを「～は…の関数である」といういい方で表すこと ○あることがら関数であるかどうかを判断すること ○関数の関係を式や矢印とことばで表すこと	○関数の関係を用いることについて関心をもち、具体的な事象のなかの2つの量の関数関係を観察、操作や実験を通して調べ、値の変化や対応のようすとらえようとしている。	○具体的な事象のなかにある2つの量の関係を、表や式に表し、変化や対応をでらえることができる。 ○文字を変数として扱うことができる。	○関数の関係を表や式、矢印とことばなどで表すことができる。	○事象のなかには関数の関係になるものがあることを理解している。 ○関数の意味を理解している。 ○変数の意味を理解している。	ア (ア)
	数学のまど	「時間をはかるくふう」		○時間をはかるくふうに関心をもち、いろいろな時計について、調べてみようとしている。	○どんな数量の間の比例関係を利用して時計を作っているのか考えることができる。			
	2節 比例 ① 比例する量	2	○比例の意味 ○定数、比例定数の意味 ○比例することがらの変化の特徴を調べること ○比例する2つの量の関係を式で表すこと ○変域の意味 ○変域を不等号を用いて表すこと ○xの変域や比例定数が負になる比例について、値の変化のようすとらえようとしている	○比例の関係に関心をもち、具体的な事象のなかから比例の関係としてとらえられる2つの量の関係を見だし、式に表そうとしている。 ○比例の特徴に関心をもち、表や式を用いて、その特徴を調べようとしている。	○具体的な事象のなかの2つの量の関係を、値の変化や対応のようすとらえようとして調べ、比例の関係にある2つの数量を見いだすことができる。 ○比例の特徴を、表や式を用いて見いだすことができる。 ○変数や比例定数が負の数になる場合について特徴を調べ、正の場合と同じ関係であるととらえることができる。	○比例の関係を、表や式に表すことができる。 ○事象の変域を求め、不等号を用いて表すことができる。	○事象のなかには比例の関係になるものがあることを理解している。 ○比例の意味、比例定数の意味を理解している。 ○変域の意味を理解している。 ○値の変化や対応のようすとらえ方について、比例の特徴を理解している。	ア (イ)
	② 比例のグラフ	2	○負の数も範囲に入れた点の位置の決め方 ○座標に関する用語の意味 ○平面上の点の表し方 ○平面上の点の座標をいうこと ○座標のあたえられた点を平面上にとること ○ $y = a \cdot x$ のグラフがどんなグラフになるかを、多くの点をとって調べること ○ $y = a \cdot x$ のグラフをかきこと ○ $y = a \cdot x$ の値の変化を調べること ○ $y = a \cdot x$ のグラフの特徴を調べること	○平面上の点の位置を表す方法に関心をもち、身のまわりのことと関連づけて考えようとしている。 ○比例のグラフについて関心をもち、プロットする点を増やしてどのような形になるかを考えようとしている。 ○比例の特徴に関心をもち、グラフを用いて、その特徴を調べようとしている。	○平面上の点の位置の表し方を考えることができる。 ○グラフを、式をみたす点の集合であるとみることができる。 ○比例の特徴を、グラフを用いて見いだすことができる。	○平面上の点の座標を求めたり、2つの数の組を平面上の点で表したりすることができる。 ○比例のグラフをかきことができる。	○座標や座標に関する用語の意味を理解している。 ○比例のグラフのかき方を理解している。 ○比例のグラフの特徴を理解している。	ア (エ)
	③ 比例の式を求めること	3	○1組のx, yの値から比例の式を求めること ○具体的な問題を、比例の式を求めて解決すること ○比例を表すグラフから、比例の式を求めること	○1組のx, yの値やグラフから比例の式を求めようとしている。 ○1組のx, yの値やグラフから比例の式を求めようとしている。	○1組のx, yの値やグラフから比例の式を求めようとしている。	○1組のx, yの値から比例の式を求めようとしている。 ○グラフから比例の式を求めようとしている。	○比例であることがわかれば、1組の値から式を求められることを理解している。	イ (ア)
	基本の問題							
	反比例のグラフ	2	○ $y = a/x$ のグラフがどんなグラフになるかを、多くの点をとって調べること ○ $y = a/x$ のグラフをかきこと ○ $y = a/x$ のグラフの特徴を調べること ○1組のx, yの値から反比例の式を求めようこと ○反比例を表すグラフから、反比例の式を求めようこと	○反比例のグラフについて関心をもち、プロットする点を増やしてどのような形になるかを考えようとしている。 ○反比例の特徴に関心をもち、グラフを用いて、その特徴を調べようとしている。	○反比例の特徴を、グラフを用いて見いだすことができる。	○反比例のグラフをかきことができる。 ○1組のx, yの値やグラフから反比例の式を求めようこと	○反比例のグラフのかき方を理解している。 ○反比例のグラフは双曲線とよばれることや、その特徴を理解している。	ア (エ)
	4節 比例と反比例の利用 ① 比例と反比例の利用	3	○図形の面積や周について、比例、反比例の関係を調べること ○具体的な問題を、比例や反比例の見方や考え方を活用して解決すること ○比例のグラフをよみとって、具体的な問題を解決すること	○長方形や正方形の面積や周の長さに関心をもち、縦・横の長さとの面積との関係を調べてみようとしている。 ○比例や反比例の関係をグラフを利用して調べようとしている。 ○具体的な事象に関する問題について、比例、反比例の見方や考え方を活用して解決しようとしている。	○ $A \times B = C$ で表される関係について、その中の2つの量の関係が比例、反比例であるかどうかを判断し、それを説明することができる。 ○2つの量の関係を比例、反比例とみなすこと、変化のようすとらえ方を調べたり、予測したりすることができる。	○数量の間の関係が比例か反比例か、あるいはどちらでもないかを調べることができる。 ○具体的な事象に関する問題を、比例や反比例の見方やグラフを活用して、解決することができる。	○ $A \times B = C$ で表される関係では、一定にする数量によって、比例の関係になったり、反比例の関係になったりすることを理解している。 ○比例、反比例の見方や考え方を活用して問題解決できる場面があることを理解している。	イ (イ)
	章の問題 A							
	章の問題 B							
11	5章 平面図形 しきつめ模様をつくってみよう	15 1	○「麻の葉」模様が、どんな図形がもとになってつくられているかを調べること ○三角形をもとにして、しきつめ模様をつくること	○日本の伝統模様に関心をもち、それらについて調べたりどのようなくみで模様がつくられているかを考えようとしている。	○しきつめ模様が、どんな図形がもとになってつくられているかを考えることができる。	○しきつめ模様をつくることができる。		B
	1節 図形の移動 ① 移動	3	○移動の意味 ○直線、線分、半直線の意味 ○2点A, B間の距離の意味 ○長さが等しいことを式で表すこと ○平行線の意味と、平行であることを式で表すこと ○平行移動の意味とその性質 ○平行移動させた図形をかきこと ○対称移動、対称の軸の意味 ○垂線の意味と、垂直であることを式で表すこと ○中点と垂直二等分線の意味 ○対称移動の性質 ○対称移動させた図形をかきこと ○線対称な図形を対称移動の見方で見ること ○回転移動、回転の中心の意味 ○角の表し方と、角の大きさが等しいことを式で表すこと ○回転移動の性質 ○回転移動させた図形をかきこと ○点対称な図形を回転移動の見方で見ること ○3つの移動を組み合わせて、図形を重ね合わせること ○合同の意味 ○移動を利用して、いろいろな問題を解決すること	○身のまわりの模様などを通して、図形の構成に関心をもち、移動の方法を考えたり、図形を移動させたりしようとしている。 ○移動した図形と元の図形の間に関心をもち、観察、操作や実験を通して、それぞれの移動の性質を調べようとしている。	○それぞれの移動について、観察、操作や実験を通して、それらの性質を見だし、調べたりすることができる。 ○2つの合同な図形を重ね合わせるとき、移動を組み合わせて考えることができる。	○それぞれの移動について、移動させた図形をかきことができる。 ○平面図形に関する用語や記号を用いて、図形や図形どうしの関係を表すことができる。	○平行移動、対称移動、回転移動の意味を理解している。 ○それぞれの移動の性質を理解している。 ○それぞれの移動について、移動させた図形のかき方を理解している。 ○平面図形に関する用語や記号の意味を理解している。 ○合同の意味を理解している。	ア (イ) (イ) (イ)

	数学のまど	／	「視覚の魔術師エッシャー」	○エッシャーやその作品について興味をもち、調べようとしている。	○エッシャーの作品について、その作り方を見だし、説明することができる。			
12	② 円とおうぎ形	2	○円の意味とその特徴 ○弧の意味とその表し方 ○弦の意味 ○おうぎ形やおうぎ形の中心角の意味 ○円やおうぎ形が線対称な図形であること ○交わる2つの円の性質について調べること	○交わる2つの円に関心をもち、その図形の性質を見だしようとしている。	○交わる2つの円の対称性をもとに、いろいろな性質を見だすことができる。	○おうぎ形の対称の軸をかくことができる。 ○交わる2つの円の性質を式で表すことができる。	○円やおうぎ形に関する用語や記号の意味を理解している。 ○円やおうぎ形が線対称な図形であることを理解している。 ○交わる2つの円の対称性について理解している。	
	基本の問題							
	2節 基本の作図 ① 作図のしかた	2	○定規やコンパスを使って正六角形をかくことと、かけるわけを説明すること ○作図における定規やコンパスの使い方 ○作図の意味	○定規とコンパスだけを使って図をかくことに関心をもち、それらを使っていろいろな図をかこうとしている。	○定規とコンパスを使って正六角形をかくときのかき方や、正六角形がかかるわけを説明することができる。	○定規とコンパスを道具として正しく使い、作図することができる。	○作図の意味を理解している。 ○作図における定規とコンパスの役割を理解している。	
	② 基本の作図	4	○交わる2円の性質を利用して、直線上にない点から直線へ垂線を作図すること ○点と直線との距離、平行な2直線の距離の意味 ○交わる2円の性質を利用して、線分の垂直二等分線を作図すること ○2点からの距離が等しい点は、その2点を結ぶ線分の垂直二等分線上にあること ○交わる2円の性質を利用して、角の二等分線を作図すること ○角の2辺までの距離が等しい点は、その角の二等分線上にあること ○直線上の点を通り、その直線に垂直な直線を作図すること	○作図に関心をもち、その方法を交わる2つの円の対称性にもとめて考えようとしている。	○作図の方法について、交わる2つの円の対称性や図形を決定する要素に着目するなどして、その手順を考えようとしている。 ○垂直二等分線、角の二等分線のある性質をもった点の集まりであるとみることができる。	○垂線、線分の垂直二等分線、角の二等分線を作図することができる。	○垂線、線分の垂直二等分線、角の二等分線の意味とその作図の方法を理解している。	ア (ア) イ (イ) ウ
	③ いろいろな作図	2	○接する、接線、接点の意味 ○接線の性質 ○接線の性質を利用して接線を作図すること ○あたえられた条件の点を、作図を利用して求めること ○具体的な問題を、作図を利用して解決すること	○基本の作図を利用することに関心をもち、目的に応じて作図をし、具体的な問題を解決しようとしている。	○接線の性質をもとに、円の接線の作図の方法を考えようとしている。 ○垂直二等分線、角の二等分線の性質を利用して、どのような図を作図すればよいかを考えることができる。	○円の接線を作図することができる。 ○条件にあてはまる図を作図することができる。	○円の接線に関する用語やその意味を理解している。 ○円の半径と接線との関係を理解している。	
	数学のまど	／	「巨大な円の中心は？」	○「グローバルタワー」について関心をもち、調べようとしている。				
	章の問題 A							
	章の問題 B							
1	6章 空間図形 いろいろな立体を作ってみよう	18 1	○巻末の紙を使っていろいろな立体を作ること ○作った立体の見取図をかいたり、共通点や相違点を話し合ったりすること	○身のまわりの建物などの立体に関心をもち、それらについて面の形などを調べようとしている。 ○模型作りに関心をもち、巻末の紙を使って、いろいろな立体を作ろうとしている。	○作った立体について、共通点やちがいを見だし、説明することができる。	○巻末の紙を使って、いろいろな立体を作ることができる。 ○作った立体の見取図をかくことができる。		B
	1節 いろいろな立体 ① いろいろな立体	2	○立体を底面の数や形に着目して分類すること ○多面体の意味 ○角錐の意味、角柱と角錐の共通点と相違点 ○正角錐、正角柱の意味 ○円錐の意味、円柱・角錐と円錐の共通点と相違点 ○球の特徴 ○正多面体の意味とその種類 ○正多面体の辺や頂点などについて調べること	○身のまわりの立体に関心をもち、それらを観察し、分類・整理しようとしている。	○いろいろな立体について、面の形や面の数などに着目して分類することができる。 ○いろいろな立体について、その特徴を調べることができる。 ○いろいろな立体について、共通点や違いを見だし、説明することができる。	○正多面体の辺の数や頂点の数をいうことができる。 ○多面体、角錐、円錐の意味やそれぞれの立体の特徴を理解している。 ○正多面体の特徴を理解している。	イ (ア)	
	2節 立体の見方と調べ方 ① 直線や平面の平行と垂直	3	○直線が平面上にあることの意味 ○平面が3点で決まること ○空間内にある2つの平面の位置関係 ○空間内にある平面と直線の位置関係 ○1つの平面上にある交わらない2つの直線の性質 ○平行な2つの平面に1つの平面が交わってできる2直線の性質 ○ねじれの位置にあることの意味 ○空間内にある2つの直線の位置関係 ○2平面のつくる角の意味と2つの平面の垂直 ○直線と平面の垂直とその判定 ○点と平面の距離 ○柱体、錐体の高さ	○空間における直線や平面の位置関係に関心をもち、それらについて、立体の観察、操作や実験を通して調べようとしている。	○空間における直線や平面の位置関係について、観察、操作や実験を通して、どのような場合があるかを考えることができる。 ○空間における直線や平面の平行や垂直について、具体例などを用いて説明することができる。	○空間における直線や平面の位置関係を、用語を用いて説明したり、記号で表したりすることができる。また、記号で表された関係をよみとることができる。	○空間における直線や平面の位置関係について理解している。	ア (ア)
	② 面の動き	2	○点か動いて線ができること、面が動いて立体ができること ○柱体を、底面がそれと垂直に動いてきた立体ととらえること ○円柱や円錐を、回転体としてとらえること ○回転体、母線の意味 ○回転体の特徴	○直線や平面の運動によって空間図形が構成されることに関心をもち、直線や平面図形の運動によってどのような空間図形が構成されるかを考えようとしている。	○柱体や錐体、球などを、直線や平面図形の運動によって構成されているという見方で見るることができる。	○直線や平面図形の運動によって構成された空間図形を、見取図に表したり、母線や回転体などの用語を用いて説明したりすることができる。	○直線や平面図形の運動によって空間図形が構成されることを理解している。 ○母線、回転体の意味を理解している。	

2

③ 立体の投影図	2	○投影図の意味、平面図、立面図の意味 ○投影図から立体を判断すること	○空間図形を投影図に表すことに興味をもち、空間図形を投影図に表そうとしたり、投影図を用いて空間図形の性質をよみとったりしようとしている。	○図形を観察する際、投影図を目的に応じて用い、空間図形の性質を平面図形に帰着させて見いだしたり、考察したりすることができる。	○空間図形の投影図をかいたり、投影図からどのような空間図形を表しているのかをよみとったりすることができる。	○投影図の意味や、空間図形を投影図に表す方法を理解している。 ○立面図と平面図だけでは立体の形がよくわからないときは、横から見た図をつけ加えることを理解している。	イ (ア)
④ 立体の展開図	2	○角柱、円柱の展開図 ○展開図から、立体の辺の位置関係を判断したり、展開図を利用して最短距離を求めたりすること ○角錐、円錐の展開図 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例すること ○おうぎ形の中心角を求めること ○おうぎ形の半径と中心角から弧の長さや面積を求めること	○空間図形を展開図に表すことに興味をもち、空間図形を展開図に表そうとしたり、展開図を用いて空間図形の性質をよみとったりしようとしている。 ○おうぎ形の弧の長さや面積と中心角の関心に興味をもち、それを観察、操作や実験を通して調べようとしている。	○図形を観察する際、展開図を目的に応じて用い、空間図形の性質を平面図形に帰着させて見いだしたり、考察したりすることができる。 ○具体的問題を解決するとき、展開図を活用することができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積と中心角の関係を、比例の見方で考えることができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積が中心角に比例することを利用して、その求め方を考えることができる。	○空間図形の展開図をかいたり、展開図からどのような空間図形を表しているのかをよみとったりすることができる。 ○展開図に最短の道のりを示すことができる。 ○円錐の展開図をかくとき、側面になるおうぎ形の中心角を求めることができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	○展開図の意味や空間図形を展開図に表す方法を理解している。 ○円柱や円錐の底面の周と側面の横や、弧の長さとの関係を理解している。 ○円錐の展開図をかくとき、側面になるおうぎ形の中心角の求め方を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積は中心角に比例することを理解している。 ○おうぎ形の弧の長さや面積について、その求め方を理解している。	
基本の問題							
3節 立体の表面積と体積 ① 表面積	3	○表面積、側面積、底面積の意味 ○柱体の表面積を求めること ○錐体の表面積を求めること	○柱体や錐体の表面積の求め方に興味をもち、それを立体の観察、操作や実験を通して調べようとしている。	○観察、操作や実験などを通して、柱体や錐体の表面積の求め方を考えることができる。 ○円錐の側面積について、中心角の関係を、弧の長さの関係や底面の半径と母線の長さの関係におきかえて考えることができる。	○柱体や錐体の表面積を求めることができる。	○柱体や錐体の表面積の求め方を理解している。	
数学のまど	／	「おうぎ形の面積」		○おうぎ形の半径と弧の長さから面積を求める式が導けるわけを、説明することができる。	○式を利用して、円錐の側面積を求めることができる。		ア (イ) イ
② 体積	1	○角柱、円柱の体積を求めること ○錐体の体積の求め方を調べること ○角錐、円錐の体積を求めること	○柱体や錐体の体積の求め方に興味をもち、それを立体の観察、操作や実験を通して調べようとしている。	○観察、操作や実験などを通して、柱体や錐体の体積の求め方を考えることができる。	○柱体や錐体の体積を求めることができる。	○柱体や錐体の体積の求め方を理解している。	
③ 球の体積と表面積	2	○球の体積や表面積の求め方を調べること ○球の体積と表面積を求めること	○球の体積や表面積の求め方に興味をもち、それを実験を通して調べようとしている。	○球の体積と表面積の求め方を、その球がちょうど入る円柱の体積、表面積をもとにして導くことができる。	○球の体積や表面積を求めることができる。	○球の体積や表面積の求め方を理解している。	
数学のまど	／	「球の体積と表面積の関係」		○球の体積と表面積の関係を説明することができる。			
基本の問題							
章の問題 A							
章の問題 B							
7章 資料の散らばりと代表値 どのバスに乗ればよいか？	8 1	○何時間分整のバスに乗ればよいかを判断するために、所要時間を整理すること	○提示された場面について興味をもち、同様の経験がないか考えてみようとしている。 ○所要時間の記録に関心をもち、分布の特徴を調べようとしている。	○分布の特徴をよみとり、説明することができる。	○所要時間の記録を表に整理することができる。		D
1節 資料の散らばりと代表値 ① 度数の分布	1	○度数分布表や階級、階級の幅、度数の意味 ○資料を度数分布表に整理すること ○度数分布表からヒストグラムや度数折れ線をかきこと ○度数分布表やヒストグラムから、資料の分布のようすや特徴をよみとること ○相対度数の必要性とその意味 ○度数分布表から相対度数を求めること ○相対度数の表から、資料の分布のようすや特徴をよみとること	○資料を整理することに興味をもち、資料を度数分布表やヒストグラムに整理することや相対度数を求めることについて、その必要性や意味を考えたり、目的に応じて資料を収集・整理し、その傾向をよみとったりしようとしている。	○資料を度数分布表やヒストグラムに表したり、また、相対度数を求めたりして、資料の傾向をよみとり、説明することができる。	○資料を度数分布表やヒストグラムに表したり、また、相対度数を求めたりすることができる。	○度数分布表やヒストグラム、度数折れ線、相対度数の意味とその必要性を理解している。	
累積度数	1	○累積度数、累積相対度数の必要性とその意味を理解し、それらを求めることができる。			○累積度数、累積相対度数を求めることができる。	○累積度数、累積相対度数の必要性とその意味を理解している。	
② 範囲と代表値	2	○範囲の意味とその求め方 ○代表値の意味 ○平均値、中央値（メジアン）、最頻値（モード）の意味とそれらの求め方 ○範囲や平均値、中央値、最頻値を用いて、資料の特徴を調べたり、2つの資料を比較したりすること ○目的や資料のようすに応じて、用いる代表値を適切に選ぶ必要があること ○これまでに調べたことをもとに、扉の課題を自分なりに考え、説明すること	○資料の散らばりや代表値に関心をもち、資料の範囲や平均値、中央値、最頻値の必要性や意味を考えたり、目的に応じてそれらを利用して資料の傾向をよみとり、説明したりしようとしている。	○資料の範囲や代表値(平均値、中央値、最頻値)から資料の傾向をよみとり、説明することができる。 ○資料の目的のようすに応じて、代表値を選択し、特徴をよみとることができる。	○資料の範囲や代表値(平均値、中央値、最頻値)を求めることができる。	○資料の範囲や代表値(平均値、中央値、最頻値)の意味と必要性を理解している。 ○資料の目的のようすに応じて、代表値を選択しなければならないことを理解している。	ア (ア)
数学のまど	／	「分布の形と代表値の関係」	○分布の形と代表値に関心をもち、具体的な資料と結びつけて考えようとしている。	○具体的資料において、分布の形によって、用いる代表値を考えて説明することができる。			
数学のまど	／	「度数分布表から平均値を求めること」		○各階級に入っている資料の値をみなその階級値とみなすことのよさを見いだすことができる。	○度数分布表から平均値を求めることができる。	○度数分布表から平均値を求める手順を理解している。	
③ 資料の活用	2	○50走の記録のヒストグラムについて、特徴をよみとったり、比較したりすること ○リレーのチーム分けについて、自分の考えで2チームに分け、その考えやチームの力について、ヒストグラムや代表値を用いて説明すること	○資料の傾向をとらえ説明することに興味をもち、目的に応じて資料を収集・整理し、問題を解決しようとしている。	○問題を解決するために資料を収集し、ヒストグラムや相対度数、代表値(平均値、中央値、最頻値)などを適切に用いて、資料の傾向をよみとり、説明することができる。	○問題を解決するために、目的に応じて資料を整理することができる。	○考えを説明するためには、資料をどのように整理すればよいかを理解している。	ア (イ) (ア)
基本の問題							

3

ことがらの起こりやすさ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○確率の意味を理解し、多数回の実験の結果をもとにして、確率を求めること ○不確定なことがらの起こりやすさの傾向を読みとり、相対度数を確率とみなして判断すること 	<ul style="list-style-type: none"> ○不確定なことがらの起こりやすさに関心をもち、多数の観察や多数回の実験の結果をもとにして感がようとしている。 ○不確定なことがらの起こりやすさの傾向を予測するために、過去の多数のデータの傾向をもとにして考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不確定なことがらの起こりやすさを割合をもとにして考え、説明することができる。 ○多数回の実験の結果を整理した表やグラフから、相対度数の変化の特徴を読みとることができる。 ○相対度数を確率とみなして起こりやすさの傾向を予測し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多数回の実験の結果をもとにして、確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多数の観察や多数回の実験によって得られる確率の必要性とその意味を理解している。 	ア (ア) イ (ア)
章の問題 A	1						
章の問題 B	/						
	122						